

ほ場整備事業と農地中間管理事業との連携について

夏川地区（一関市）、武道地区（盛岡市）の取組

■岩手県農林水産部農村計画課・農村建設課

岩手県では、地域農業の将来像を描いた「地域農業マスタープラン」の実現に向けた話し合いにより、担い手の明確化を促すとともに、ほ場の大区画化や排水改良などの基盤整備と農地中間管理事業による農地利用集積を一体的に推進することとしています。

今回は、ほ場整備事業の実施地区において、農地中間管理事業を導入し、担い手への農地利用集積が大きく進んだ事例を紹介します。



1 夏川地区（一関市）の取組

一関市花泉町の夏川地区では、平成14年度からほ場整備事業（地区面積541ha）に着手しました。

夏川地区では、担い手への農地利用集積を加速させるため、平成26年度に、地区内の3営農組織の統合・法人化と併せて、農地中間管理事業を導入することとなりました。

担い手への農地利用集積率は、ほ場整備事業着手前の平成13年度は6%（35ha）でしたが、平成25年度には54%（291ha）に増加し、更に農地中間管理事業の導入により、平成26年度に86%（467ha）に増加しました。

今後も、関係農家との話し合い等を進め、平成29年度には90%の農地を、地区の担い手である『農事組合法人』「なつかわファーム」（平成26年9月設立）に集積することとしています。

なお、夏川地区では、夏川沿岸土地改良区が、「法人設立

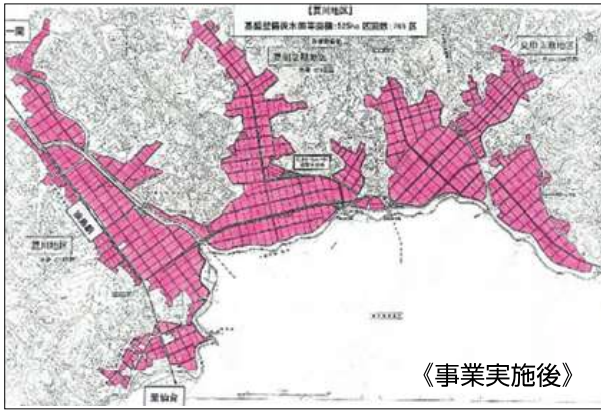
の支援」だけでなく、農地中間管理機構（公益社団法人岩手県農業公社）から「賃料や期間等の農地の貸付けに関する出し手農家との調整業務」を受託するなど、効率的な営農体制の構築に大きな役割を果たしています。



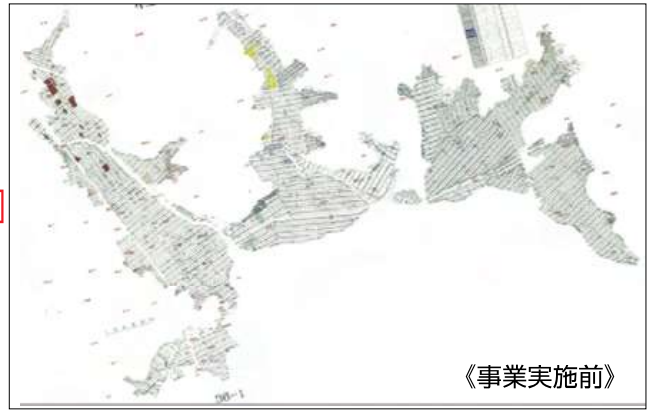
【夏川地区】大型機械による効率的な営農



【夏川地区】水田の大区画化の状況



《事業実施後》



《事業実施前》

【夏川地区】担い手農地利用集積の状況（着色箇所が担い手の経営等農地）

2 武道地区（盛岡市）の取組

盛岡市玉山区の武道地区では、平成24年度からほ場整備事業導入に向けた話し合いが行われており、担い手への農地利用集積やほ場整備事業の計画策定と併せて、農地中間管理事業の導入に向けた検討が行われました。その結果、平成27年度のほ場整備事業の着手に先立ち、平成26年度に農地中間管理事業を導入することとなりました。

地区の担い手である「農事組合法人「農の未来武道」（平成25年1月設立）」には、農地中間管理事業の導入により、平成26年度までに地区面積30haの86%（28ha）の農地が集積されており、今後、ほ場整備事業により生産基盤の整備を進め、平成34年度までに100%を目指すこととされています。



【武道地区】担い手農地利用集積計画（全農地を集積）



【武道地区】現況のほ場（10a区画）



今回紹介した事例の他、陸前高田市の小友地区では、ほ場整備面積の75%（70ha）を、『農事組合法人「サンファーム小友」（平成26年3月設立）』に集積することで、農業経営の効率化が図られるなど、ほ場整備事業と農地中間管理事業との連携の効果が現れています。

本県における農地中間管理事業は、平場地域での取組が進む一方で、県北・沿岸地域や、中山間地域では取組が遅れています。県では、平成35年度までに全農地の8割を担い手に利用集積する目標を掲げており、引き続き、ほ場整備事業等による生産基盤の条件改善と、農地中間管理事業による農地利用集積を一体的に推進していきます。

●このページに関するお問い合わせ

岩手県農林水産部農村計画課・農村建設課 Tel1019-629-5666 Fax 019-629-5679 E-mail: AF0006@pref.iwate.jp